

## 組合士の可能性を考える時が来ている

今回、ご登場いただく大久保さんは異色の経歴の持ち主である。現役時代は通商産業省（当時）の職員として中小企業や組合を指導する立場に長くあり、「あらゆる業種の現場を巡回、訪問した企業数は軽く2000事業所を超えた」といういわば導く側として事情通だった。

同省退職後は、日本テントシート工業組合連合会の事務局長、専務理事を歴任、一転して組合の現場に立つ人として陣頭指揮をふるって来た。今春、同連合会を退職した現在は、「中小企業組合士・行政書士 大久保芳一」としてフリーランスの立場から中小企業の支援に当たっている。

そこで、様々な角度から中小企業と組合に関わり、眺めてきた経験と知識の持ち主だからこそ伺える「組合士の可能性」について語っていただいた。

### 組合士を知らなかった組合士

おもしろいことというのか、大久保さんは「通産省在職中ですが、組合に奉職してからもしばらくは組合士という資格のことは知らなかった」と言う。ある日、全国中央会を訪ねたおりに「たまたま組合検定試験ポスターを見た」大久

保さんは、そこにある「1組合1組合士」のキャッチフレーズに、「組合士という資格取得者の存在があつて、組合もより充実する」と考え、資格取得に挑戦することを決めた。

例えば、税理士試験の一部科目に合格するなど、通産省在職時代から個人的にも積み重ねてきた勉強や知識、経験の「蓄積」で十分に「いける」と確信した大久保さんは「特に試験勉強というのはしなかった」と言うが、見事に合格。昨年6月には組合士としての登録も終えている。

そんな組合の表裏を知り尽くし、現場を知る人が資格の存在を知らなかったという事実を踏まえながら、組合士という資格のあり方について伺うと、「PR不足です。全国約3万組合に資格の存在を先ず知ってもらうことが大切」と、大久保さん自身、名刺に「中小企業組合士」の肩書きを印刷、直接は組合に関係のない人にも気づいてもらう機会、きっかけにしているという。

また、大久保さんは行政書士の資格も持っているが、そういった背景も踏まえて、例えば、公認会計士や弁護士の団体のホームページ（HP）を見るととても

充実しているとし、こういう関連士業のHPも参考にしながら、組合士を知ってもらうにはそのHPの充実も不可欠だと指摘する。

### 組合内知恵の巨人を目指せ

もう一つ、組合士という資格、あるいは存在の持つ可能性についても、その考えを伺ってみた。それに対して、「中央行政は人も組織も拡大は困難となり、間接行政の時代を迎えている」という認識を示した上で、資格者、専門職という位置づけにある「さむらいし（士）業」は、間接行政を有償で担当している準公務員的な存在と言えらるるとして、「組合士もそういう士業の一つとして、組合の管理運営のみならず、行政や中央会との接点という役割を考える時ではないでしょうか。組合とそれを通じた業界の適正な運営に関わる行政や中央会との接点になる可能性もあります」と指摘する。

例えば、「組合士であれば業界動向や地域の景況をダイレクトに把握し、伝えることができるという点では、行政や中央会が組合士の知恵や情報を活用する。他方、組合士は行政や中央会が掌握する膨大な情報やそれに基づく知恵をもっと



活用する。そういう関係を活用しない手はない」というわけだ。

また、近年は「共同連帯や自助と連携」という言葉がしばしば使われるが、「組合事業は共同連帯そのものである」とした上で、「共同連帯というのは、フリーライドではなく、自ら汗をかくことです。これを引つ張っていくのは組合士その意味で、組合内の知恵の巨人となつてより信頼される存在になることです。さらに、これから新たに組合を作りたいという人々にとっては「組合のインキュベーター」としての役割も果たせるだろう」と組合士の方向性を示す。

「中小事業者が厳しい経済環境のステージ（舞台）で円滑な事業活動を展開できるように、組合士は、舞台裏を支える総合プロデューサーやマネージャーとなり、常に自助努力、自己研鑽をすることが肝要です。私自身も含め、組合士としての位置づけを見極め、適正確実な知恵と経済環境に係わる情報の提供等、中小事業者と連携して、その発展に寄与する時代を迎えていると思います」  
長く中小企業と組合の指導と支援に当たってこられた方ならではの示唆だろう。